

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授業科目	看護研究の基礎	担当教員	原田 博子	単位	1	学習時間数	30
目的	看護研究に必要な基礎的知識を習得し、科学的に看護学を探究することのできる姿勢を養う。						
目標	1 看護研究の意義について説明できる。 2 看護研究の進め方を説明できる。 3 文献検索の方法を知り、文献を研究に活用することができる。 4 研究論文を批判的に読むことができる。 5 看護研究のデザイン(量的研究・質的研究)について説明できる。 6 研究において必要な倫理的問題について説明できる。 7 看護研究計画書の作成・発表・ディスカッションすることができる。 8 研究のデータの整理・分析の方法について説明できる。 9 研究論文を効率的にまとめる方法について説明できる。 10 研究を発表するために必要な準備について説明できる。						
回	項目	内 容		教授学習方法		備考	
1・2	看護研究の基礎的知識1 目標①②	1 看護研究とは 2 看護研究の意義と目的 3 研究テーマの見つけ方 4 看護研究のながれ 5 文献検索・文献検討		講義 序章・第一章・第二章1,2		8月28日	
3・4	看護研究の基礎的知識2 目標③④	1 文献の読み方 2 概念枠組み 3 研究デザインとは		講義 第二章3・第三章、第五章		9月4日	
5・6	看護研究の基礎的知識3 目標⑤	1 量的研究のアプローチのしかた 2 質的研究のアプローチのしかた		講義 第六章・第七章		9月25日	
7・8	看護研究の基礎的知識4 目標⑥⑦	1 研究における倫理的問題 2 研究計画書とは 3 研究計画書に含まれる内容		講義 第四章・第八章		10月2日	
9・10	研究計画書作成1 目標⑦	グループで研究計画書を作成		演習		10月16日	
11・12	研究計画書作成2 目標⑦	グループで研究計画書を作成・発表		演習		10月23日	
13・14	研究のまとめ方 目標⑧⑨⑩	1 データの整理の仕方(量的研究) 2 データの整理の仕方(質的研究) 3 研究論文としてまとめる 4 研究を発表する		講義 第九章・第十章・第十一章・第十二章		11月6日	
15	試験					11月20日	

評価の方法:試験

テキスト:坂下玲子他、系統看護学講座看護研究、医学書院

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授業科目	社会学	担当教員	桑畑 洋一郎	単位	1	学習時間数	30
目的	社会学の基本的な概念を学び、社会的なものの方・考え方を理解する。						
授業概要	社会学の基礎的な視点を学ぶとともに、個々の人間や地域社会などが抱える今日的な課題について考え、これからの看護のありかたを学んでいく。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考	
1	社会学とは何か	社会学はどのような学問であるかを創始者であるコントの社会学とその後の社会学について学ぶ。			講義	社会学理論と研究方法 地位と役割	
2	社会学研究方法	社会学の研究方法・対象となる行為、相互作用、社会関係、集団、全体社会に学ぶ。			講義		
3	家族と人間	家族の定義・形態、家族の構造と機能、そして、現代の家族代表である核家族について学ぶ。			講義		
4	現在の家族問題	現在家族の抱えている問題と現在の小家族化・高齢化の社会の特徴と課題について学ぶ。			講義		
5	地域社会と生活（農村）	伝統的な社会としての農村社会、そのもつ構造と機能と農村社会の暮らしについて学ぶ。			講義		
6	地域社会と生活（都市）	都市社会はどのようにして形成されたか。我が国の都市と西洋都市の違いについて学ぶ。			講義		
7	農村社会の課題	農村社会の仕組み（構造と機能）と我が国の農村社会の特徴を学ぶ。過疎と高齢化			講義		
8	都市社会の課題	都市社会の仕組み〔我が国の都市（構造と機能）〕と都市への人口集中（過密問題）			講義		
9	現代社会のコミュニケーションの課題	現代のコミュニケーションの特徴、親密性の病理について学ぶ。派生形態としてのマス・コミュニケーション			講義	第2回の授業：相互作用と関連	
10	差別と偏見	多様な差別現象と「いじめ」などがなぜ生まれるのか、その解決策を学ぶ。ラベリングの視点と対抗ラベリング			講義		
11	現代における組織の課題	組織社会が抱える問題と病院という組織社会の現状と課題を学ぶ。			講義		
12	専門職の課題	現在専門職の抱える問題、そして看護師のおかれた現状と課題を学ぶ。ストレス、バーンアウトなど			講義		
13	現代社会の課題	地域包括ケアの時代における医療と福祉の現状と課題を学ぶ。			講義		
14	社会調査の方法	社会学の実証的研究方法を学ぶ。アンケート調査と事例調査法の質問作成と調査法について学ぶ。理論と調査の関係			講義		
15	試験	まとめと試験			講義		

評価の方法:筆記試験(100点)

テキスト:系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院

参考文献:その都度紹介

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授業科目	医療英語	担当教員	正宗 聡	単位	1単位	学習時間数	30
目的	医療現場で、英語を使用しなければならない場面に遭遇した時に、冷静かつ適切に対応できる能力を養う。						
目標	医療現場で英語を使わなければならない場面になったとき、日本語がわからない患者に不安を与えないよう冷静に対応できる。 言葉がわからず不安を覚えている外国の方々に的確に対応するために、英語に対する苦手意識を克服し、診察に必要な不可欠な情報の授受を行う基本的な英語表現を実際の場面の中で練習する。						
回	項目	内 容				教授学習内容	
1	医療と英語	毎日の観察(1)				講義・演習	
2	医療と英語	毎日の観察(2)				講義・演習	
3	医療と英語	入院患者の安らぎ(1)				講義・演習	
4	医療と英語	入院患者の安らぎ(2)				講義・演習	
5	試験	理解度テスト				テスト	
6	医療と英語	薬などの利用法(1)				講義・演習	
7	医療と英語	薬などの利用法(2)				講義・演習	
8	医療と英語	患者教育(1)				講義・演習	
9	医療と英語	患者教育(2)				講義・演習	
10	試験	理解度テスト				テスト	
11	医療と英語	医療相談(1)				講義・演習	
12	医療と英語	医療相談(2)				講義・演習	
13	医療と英語	問診と基礎的な検査(1)				講義・演習	
14	医療と英語	問診と基礎的な検査(2)				講義・演習	
15	試験	理解度テスト				テスト	

評価の方法:筆記試験(100点)

テキスト:なし

令和8年度シラバス（第一看護学科）

31期生 2年次

授業科目	文学	担当教員	野坂 昭雄	単位	1	学習時間数	15
目的	文学作品を通して、自然の美しさや人の心の機微を感じるとともに、人間に対する理解を深め、豊かな人間性を培う。						
目標	日本の近代詩の代表的作品を鑑賞し、表現の独自性およびテーマの深い理解を通して文学の魅力を実感し、それを他の人にも伝えることができる。						
回	項目	内 容				教授学習方法	備 考
1	近代詩の始まり	詩の定義、近代詩の始まりである「新体詩抄」、島崎藤村、石川啄木の詩について取り上げます。				講義	
2	北原白秋と大手拓次	詩の表現を深化させた二人の詩人、北原白秋と大手拓次の詩を取り上げます。				講義	
3	萩原朔太郎	日本の近代詩を語る上で欠かせない存在である萩原朔太郎の詩を取り上げます。				講義	
4	労働者のための詩	社会の問題、特に労働者のことを取り上げた詩（プロレタリア詩）を取り上げます。				講義	
5	新しい詩	大正の終わりから昭和にかけての、モダニズムといわれる流れの中で試みられた多様な表現を取り上げます。				講義	
6	昭和の抒情詩	中原中也など、昭和の初めに活躍した詩人の作品を取り上げます。				講義	
7	まとめ	これまでの内容を振り返り、日本の近代詩の展開を説明します。				講義	
8	試験	筆記試験					

評価の方法：授業内のミニレポートと筆記試験の結果により評価します。

テキスト：授業ではプリントを配布します。

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授業科目	人間関係論	担当教員	水田 亘	単位	1	学習時間数	30
目的	人間関係のダイナミズムに対する理解と目的に応じた役割関係を展開する人間関係能力を養う。						
目標	看護のための人間関係論 ～知識と実践～ 自己理解と人間理解 ～コミュニケーション能力～						
回	項目	内 容				教授学習方法	備 考
1	対自的コミュニケーションⅠ	自己紹介 人間関係論概要				講義・演習	
2	対自的コミュニケーションⅠ	人間関係を学ぶ問題意識 自己と他者①				講義・演習	
3	対自的コミュニケーションⅡ	自己と他者② V.フランクルについて				講義・演習	
4	対自的コミュニケーションⅡ	人間関係の基盤 言語・認知				講義・演習	
5	対他的コミュニケーションⅠ	対人関係 基礎理論①				講義・演習	
6	対他的コミュニケーションⅠ	対人関係 基礎理論②				講義・演習	
7	対他的コミュニケーションⅡ	現代社会と人間関係				講義・演習	
8	対他的コミュニケーションⅡ	家族と人間関係				講義・演習	
9	対他的コミュニケーションⅢ	治療関係とカウンセリングの理論①				講義・演習	
10	対他的コミュニケーションⅢ	治療関係とカウンセリングの理論②				講義・演習	
11	対他的コミュニケーションⅣ	看護ケアや社会福祉援助における人間関係①				講義・演習	
12	対他的コミュニケーションⅣ	看護ケアや社会福祉援助における人間関係②				講義・演習	
13	対他的コミュニケーションⅤ	看護のための人間関係 エンパワーと解決志向				講義・演習	
14	対他的コミュニケーションⅤ	地域と人間関係				講義・演習	
15	試験	筆記試験					

評価の方法:筆記試験(100点)

テキスト:なし

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授 業 科 目		臨床医学Ⅰ (生命維持・栄養・感覚機能障害)		単位	1	学習時間数	30
担当 教員		実務経験			主な実務経験場所		
	非常勤講師	有・無			備考参照		
目的	臨床における生命維持・栄養・感覚機能障害の病態生理・症状・治療・検査について学ぶ。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1～3	呼吸器疾患	肺炎・肺気腫・肺循環障害・肺腫瘍他			講義	長門総合病院 医師:須田博喜	
4～5	放射線医学	放射線を利用した検査と治療 放射線療法 防護			講義	長門総合病院 医師:須田博喜	
6～9	循環器疾患	狭心症・心筋梗塞・不整脈			講義	県立総合医療センター 医師:池田安宏	
10～13	消化器疾患	肝硬変(食道静脈瘤)肝癌・肝炎・胆嚢炎 胃がん・膵臓癌・結腸癌・直腸癌・ 潰瘍性大腸炎・クローン病			講義	長門総合病院 医師:三谷伸之	
14～15	耳鼻咽喉科 疾患	中耳炎 メニエール病 副鼻腔炎 喉頭がん			講義	都志見病院 医師:岡崎英紀	

評価の方法:筆記試験 呼吸器疾患(20点) 放射線医学(20点) 循環器疾患(20点) 消化器疾患(20点) 耳鼻咽喉疾患(20点)

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学3 循環器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学5 消化器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授 業 科 目		臨床医学2 (内部環境調節・生体防御機能 障害・外科疾患)	単位	I	学習時間数	30
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	非常勤講師		有 無		備考参照	
目的		臨床における内部環境調節・生体防御機能障害・外科疾患の病態生理・症状・治療・検査について学ぶ。				
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考
1～3	内分泌・代謝	甲状腺機能亢進症 糖尿病 高脂血症			講義	県立総合医療センター 医師:竹田孔明
4～6	腎泌尿器	腎腫瘍 膀胱腫瘍 尿路結石 腎不全(人工透析・腎移植)			講義	長門総合病院 医師:角 勇樹
7～8	アレルギー・膠原病・血液疾患	全身性エリテマトーデス 白血病 悪性リンパ腫 血友病			講義	長門総合病院 医師:香月憲作
9～14	外科疾患	胸部外科(肺がん・乳がん)・心臓外科 胃十二指腸疾患・結腸癌・胃がん・直腸癌 動脈瘤・イレウス・食道静脈瘤破裂 麻酔学			講義	長門総合病院 医師:久我貴之
15	歯口腔疾患	歯・口腔の構造と機能 齲歯 歯髄疾患			講義	医師:上村俊介

評価の方法:筆記試験 内分泌・代謝(20点) 腎泌尿器(20点) アレルギー・膠原病・血液疾患(10点) 外科疾患(50点)

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学15 歯・口腔 医学書院

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授 業 科 目		臨床医学3 (認知・運動機能障害)		単位	1	学習時間数	30
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所		
	非常勤講師		有・無		備考参照		
目的		臨床における認知・運動機能障害の病態生理・症状・治療・検査について学ぶ。					
回	項 目	内 容			教授学習方法		備 考
1～4	脳外科疾患	脳梗塞 くも膜下出血 脳腫瘍 頭部外傷 病態生理・症状・治療・検査			講義		都志見病院 医師:殖木洋平
5～8	脳内科疾患	パーキンソン病 重症筋無力症 進行性筋ジストロフィー症 ALS 病態生理・症状・治療・検査			講義		菟慈生病院 医師:多田穰治
9～12	精神疾患	統合失調症 気分障害 アルコール依存症 パーソナリティ障害 病態生理・症状・治療・検査			講義		こころの医療セン ター 医師:兼行浩史 医師:角田武久
13～15	運動器疾患	骨折 慢性関節リウマチ 脊髄損傷 病態生理・症状・治療・検査			講義		長門総合病院 医師:村松慶一

評価の方法:筆記試験 脳外科疾患(20点) 脳内科疾患(20点) 精神疾患(40点) 運動器疾患(20点)

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学7 脳・神経 医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学10 運動器 医学書院

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授 業 科 目		臨床医学4 (性機能・感覚機能障害・小児疾患)	単位	I	学習時間数	30
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	非常勤講師		○有・無		備考参照	
目的		臨床における性機能・感覚機能障害・小児疾患の病態生理・症状・治療・検査について学ぶ。				
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考
1～6	女性生殖器 母性疾患	月経の機序・月経異常・無月経 子宮筋腫・子宮がん・更年期障害 胎児の生理・分娩時の異常 妊婦の生理・妊娠の異常・外妊			講義	長門総合病院 医師:中島博予
7～8	眼疾患	眼の構造と機能 視機能障害 眼底疾患 外眼部疾患 内眼部疾患			講義	さがら眼科クリニック 医師:相良健
9	皮膚疾患	湿疹・皮膚炎 接触皮膚炎 細菌感染症 ウィルス感染症 皮膚良性腫瘍 皮膚悪性腫瘍			講義	医師:武藤正彦
10～15	小児疾患	代謝性疾患・内分泌疾患 免疫アレルギー疾患・感染症 呼吸器疾患・循環器疾患 消化器疾患・血液造血器疾患 悪性新生物・腎泌尿器疾患 神経疾患・運動器疾患			講義	長門総合病院 医師:青木宜治

評価の方法:筆記試験 女性生殖器・母性疾患(50点) 小児疾患(50点)

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学13 眼 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学12 皮膚 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授 業 科 目		薬理学各論	単位	I	学習時間数	30
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	西村 正広		有 無		周南病院 等	
目的	健康障害に対する薬物療法の薬物の特徴・作用機序・人体への影響について学ぶ。					
目標	健康障害に対する薬物療法の薬物の特徴・作用機序・人体への影響について理解する。					
回	項 目	内 容			教授方法	備 考
1～14	末梢神経系作用薬	自律神経作用薬 筋弛緩薬 局所麻酔薬			講義	
	中枢神経作用薬	全身麻酔薬・麻酔性鎮痛剤 睡眠薬・向精神薬 抗パーキンソン薬・抗てんかん薬 中枢神経興奮薬・アルツハイマー病薬			講義	
	循環器系作用薬	抗高血圧薬・心臓作用薬 腎臓作用薬・血液造血器系作用薬			講義	
	抗炎症薬	抗炎症薬 抗生物質			講義	
	呼吸器系作用薬	気管支喘息治療薬・鎮咳薬 去痰薬・呼吸促進薬			講義	
	消化器系作用薬	抗消化性潰瘍薬・消化不良改善薬 制吐薬・催吐薬・催下薬			講義	
	ホルモン系生殖器系作用薬	糖尿病治療薬・甲状腺機能亢進症治療薬 骨粗鬆症治療薬・前立腺肥大症治療薬 子宮収縮薬・不妊症治療薬			講義	
	抗感染症薬	抗感染症薬 消毒薬			講義	
	抗悪性腫瘍薬	抗悪性腫瘍薬・ホルモン剤 トレチノイン・免疫療法薬			講義	
	漢方薬				講義	
15	試験	筆記試験				

評価の方法:筆記試験(100点)

テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学 医学書院

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授 業 科 目		公衆衛生学	単位	I	学習時間数	30
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	非常勤講師		有 無		備考参照	
目的	公衆衛生のヘルスプロモーションを学び、自分自身の健康づくりとともに、家族や職場の健康づくり、地域での総合的な健康づくりを推進する方法論を学ぶ。公衆衛生に関連する統計情報と衛生行政を知り、看護の役割について学ぶ。					
目標	1 公衆衛生の理念としくみについて理解する。 2 地域における公衆衛生の実践を理解する。 3 集団の健康をとらえるための疫学・保健統計について理解する。 4 環境と健康、感染症の予防と対策、健康危機管理の知識・技法について理解する。					
回	項 目	内 容		教授学習方法	備 考	
1	公衆衛生とは何か 公衆衛生の歴史	1 公衆衛生の目的 2 公衆衛生の歴史 3 新たな公衆衛生の理念 (1) プライマリーヘルスケア (2) ヘルスプロモーション		講義	保健所長 医師:高橋幸広	
2	公衆衛生の活動対象 公衆衛生のしくみ	1 社会集団 2 社会集団をとらえる視座 3 政策展開 4 国と地方自治体の役割		講義	保健所長 医師:高橋幸広	
3・4	環境と健康 感染症とその予防策	1 疫学と健康指標 2 地球規模の環境と健康 3 身のまわりの環境と健康 4 日本の環境行政 5 国際保健 6 感染症とその予防		講義	保健所長 医師:高橋幸広	
5・6	地域における保健活動	1 地域保健 (1) 地域保健法 (2) 健康増進法 (3) 健康日本21 2 健康危機管理 3 災害保健		講義	長門健康福祉センター 保健師:福田昭子	
7		1 母子保健 (1) 母子保健法 (2) 健やか親子21(第2次) (3) 母体保護法		講義	滝川洋子	
8		1 精神保健 (1) 精神保健医療福祉の施策 (2) 精神障害者(児)の医療と福祉 (3) こころの健康対策、自殺対策 (4) 発達障害に関する医療と福祉 (5) 自殺対策基本法 2 難病保健		講義	長門健康福祉センター 保健師:坂田浩明	
9・10	職場と健康	1 産業保健とは 2 労働者の健康問題 3 産業保健・看護の展開		講義	宇部フロンティア大学 立川美香	
11・12	学校保健	学校保健の実際		講義	萩高等学校 養護教諭:古川かおる	
13	難病保健の実際	地域における難病対策の実際		講義	萩健康福祉センター 保健師:宮村真実	
14	感染症対策の実際	地域における感染症対策の実際 (結核・HIV・SARS他)		講義	萩健康福祉センター 保健師:林直美	
15	試験	筆記試験				

評価の方法:筆記試験(100点)

テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院

国民衛生の動向 厚生労働統計協会

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授業科目	社会福祉	担当教員	今川元治:(12) 中村恵子:(18)	単位	2	学習時間数	30
目的	対象者の生活上の諸問題に対しての社会保障制度を学ぶ。社会資源と医療保障の関連について学び、保健・医療・福祉の協働の意義を理解し、看護の役割について学ぶ。介護保険の仕組みを理解する。						
回	項 目	内 容			教授学習方法		備 考
1	社会福祉とは	社会福祉の意味 社会福祉の理念・体系			講義		今川元治
2	生活保護制度の仕組み	生活問題の展開 社会福祉の基本的動向			講義		
3	社会保障と社会福祉	社会保障制度の概要 社会保障の機能 社会福祉の法制度			講義		
4	生活保護制度の基本原則	生活困窮者福祉 社会福祉援助の基礎理論			講義		
5	高齢者福祉	高齢者の生活の現状と課題			講義		
6	障害者福祉	障害者の生活の現状と課題			講義		
7	社会福祉の概念と社会福祉援助活動	社会福祉実践を行う上での基本枠組み・視点			講義		在宅サポートセンターかがやき 社会福祉士: 中村恵子
8	社会福祉の概念と社会福祉援助活動	社会福祉実践における価値と倫理			講義・演習		
9	社会福祉と生活構造	社会福祉と生活構造 生活の視点を捉え支援・課題・ニーズについて理解する			講義・演習		
10	社会福祉援助	社会福祉における権利擁護			講義		
11	社会福祉援助	福祉専門職とソーシャルワーク			講義		
12	社会福祉援助技術 直接援助技術と間接援助技術	ソーシャルワーカーの行う専門援助活動 個人・家族への援助・グループへの援助・コミュニティ支援			講義・演習		
13	社会福祉援助技術 間接援助技術と関連領域	社会福祉調査・社会福祉運営管理・社会活動法			講義		
14	社会福祉実践	対人援助と事例研究			講義		
15	試験	筆記試験			試験・講義		

評価の方法:筆記試験 今川先生(50点) 中村先生(50点)

テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3社会保障・社会福祉 医学書院

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授業科目	関係法規	担当教員	今川 元治	単位	1	学習時間数	15
目的	国民として健康な生活を維持するために必要な法の理解と、看護業務に携わる人の身分や業務に関する法を理解する。						
授業概要	1 法制度のしくみ 2 わが国の保健医療、福祉、及び労働に関する法制度						
回	項目	内 容				教授学習方法	備考
1	法律の概要	法律の仕組み				講義	
2	医療法規	医療法、保助看法、医師法、臓器移植法、救急救命士法				講義	
3	薬事法規	薬事法、毒物及び劇物取締法、麻薬及び向精神薬取締法、大麻取締法、あへん法、覚醒剤取締法、安全な血液製剤の安定供給に確保等に関する法律				講義	
4	保健衛生法規	地域保健法、母体保護法、母子保健法、学校保健法				講義	
5	予防衛生法規	感染症法、予防接種法、結核予防法、検疫法				講義	
6	環境衛生法規 労働法規	環境基本法、食品衛生法など 労働基準法				講義	
7	福祉関係法規	生活保護法、身体障害者基本法、児童福祉法、老人福祉法、知的障害者福祉法、母子及び寡婦福祉法、社会福祉法、障害者自立支援法など				講義	
8	試験	筆記試験					

評価の方法:試験(100点)

テキスト:健康支援と社会保障制度4 看護関係法令 医学書院

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授業科目		地域・在宅看護概論		単位	I	学習時間数	15
担当教員	中川 智江	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	地域・在宅看護の目的と特徴を理解し、地域・在宅看護における看護師の役割を学ぶ。						
目標	1 地域・在宅看護の目的について理解する。 2 日本の在宅看護の変遷とその社会背景について理解する。 3 地域・在宅ケアにおける看護師の役割を理解する。 4 在宅療養者および家族の特徴を理解する。 5 在宅療養の支援について理解する。						
回	項目	内 容			教授学習方法	備考	
1	地域・在宅看護の役割	1 地域・在宅看護の対象 2 地域・在宅看護に求められる役割			講義/DVD/ 協同学習		
2	暮らしの基盤としての 地域の理解	1 暮らしと地域を理解するための考え方 (1) システム理論 (2) システム思考 2 地域包括ケアシステムと地域共生社会 (1) 地域包括ケアシステム (2) 地域共生社会			講義		
3	地域・在宅看護の対象	1 地域在宅看護の対象者 (1) 地域による多様性 (2) ライフステージによる多様性 (3) 健康レベルの多様性 2 家族の理解 (1) わが国における家族の現状 (2) わが国における家族とその変遷 (3) 地域・在宅看護の対象としての家族			講義 協同学習		
4		3 地域に暮らし対象者の理解と看護 (1) 地域の特性の理解と看護 (2) 家族のライフステージの理解と看護 (3) 対象者の理解からつながりをつくる看護					
5	地域における暮らしを支える看護	1 暮らしを支える地域・在宅看護 (1) 「暮らしを支える看護」とは (2) 「暮らしを支える看護」の実践 2 暮らしの環境を整える看護 (1) 暮らしに関連する環境 (2) 暮らしの環境を整える看護とは (3) 看護師に求められる態度・知識・姿勢 (4) 環境を整える看護の意義 3 広がる看護の対象と提供方法 (1) 健康に対する人々のニーズ (2) 看護の実践方法の広がり (3) 人々の健康ニーズにこたえる看護 (4) 健康ニーズを支える看護の実践例			講義 協同学習		
6		4 地域における家族への看護 (1) 地域における家族への看護とは (2) 家族を支援する看護師の基本的な姿勢 5 地域におけるライフステージに応じた看護 (1) ライフステージと人々の暮らし (2) ライフステージによる健康課題と予防 (3) 疾病とライフステージ (4) 家族とライフステージ					
7			6 地域での暮らしにおけるリスクの理解 (1) 暮らしにおけるリスク (2) 暮らしにおけるリスクの種類 (3) できる限り安全に暮らしつづけるための援助 7 地域での暮らしにおける災害対策 (1) 暮らしと災害 (2) 地域・在宅看護と災害対策			講義/DVD	
8	試験	筆記試験					

評価の方法:筆記試験(90点)、演習参加状況、事前課題(10点)

テキスト: 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 I 医学書院
国民衛生の動向 厚生労働統計協会

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授業科目		地域・在宅看護援助論Ⅰ (在宅における生活支援)	単位	I	学習時間数	15
担当教員			実務経験		主な実務経験場所	
	中川 智江(7)		(有)無		山口県立総合医療センター	
	非常勤講師(8)		(有)無		備考参照	
目的	地域・在宅看護に関連する諸制度を理解し、ケアマネジメントと看護を学ぶ。					
目標	1 地域・在宅ケアを支える制度と社会資源について理解する。 2 地域・在宅ケアの連携とマネジメントについて理解する。 3 医療機関における退院調整・地域連携の実践を理解する。					
時間	項 目	内 容			教授学習方法	備考
I	地域・在宅看護実践の場と連携	1 さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし 2 おもな地域・在宅看護実践の場 (1) 住まいで提供される看護 (2) 通所サービスの場で提供される看護 (3) 短期入所サービスの場で提供される看護 (4) 通所・短期入所・訪問サービスの場で提供される看護 (5) 施設サービスの場で提供される看護 (6) 医療機関で提供される看護 (7) 地域のなかで提供される看護 3 地域・在宅看護における多職種連携 (1) 医療専門職との連携 (2) 福祉専門職との連携 (3) 介護支援専門員(ケアマネジャー)との連携 (4) 多職種連携からのネットワークづくり			講義 協同学習	
2	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	1 介護保険・医療保険制度 (1) 介護保険制度 (2) 医療保険制度 2 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 3 訪問看護の制度 (1) 訪問看護制度の歩み (2) 訪問看護の対象者の特徴 (3) 訪問看護の利用者と訪問回数 (4) 訪問看護ステーションに関する規程 (5) 訪問看護の利用までの手順 (6) 訪問看護の費用 (7) 訪問看護サービスの提供 (8) ケアマネジメントと社会資源の活用 4 地域保健にかかわる法制度 5 高齢者に関する法制度 6 障害者・難病に関する法制度 7 公費負担医療に関する法制度 8 権利保障に関連する制度			講義 協同学習	
3						
4	退院支援の実践	1 医療機関における退院調整・地域連携の実践			講義	長門総合病院 地域医療福祉連携室 看護師:下田智美
5	ケアマネジメントの実践	1 居宅介護支援事業所の機能と役割			講義	長門総合病院 居宅介護支援事業所 介護支援専門員(看護師):野村有美恵
6	作業療法	1 作業療法 (ADL・IADLの維持および向上のための援助)			講義	長門総合病院 作業療法士:木下大介
7		1 訪問リハビリテーションの実践			講義	長門総合病院(訪問リハビリテーション) 作業療法士:豊田泰正
8	試験	筆記試験				

評価の方法:筆記試験(中川:90点/木下:10点)

テキスト: 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論Ⅰ 医学書院
国民衛生の動向 厚生労働統計協会

令和8年度シラバス（第一看護学科）

31期生 2年次

授業科目		成人看護援助論Ⅰ (呼吸・循環機能障害をもつ患者の看護)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員	実務経験		主な実務経験場所			
	永松 佑奈 (26)	(有)・無	山口県立総合医療センター			
	非常勤講師 (4)	(有)・無	備考参照			
目的	呼吸・循環機能障害をもつ対象を理解し、その対象に応じた看護が展開できるための知識・技術を養う。					
目標	1 呼吸器・循環器疾患患者の身体的・心理・社会的問題を理解する。 2 呼吸器・循環器疾患患者の看護を理解する。 3 急性期の経過をたどる対象を理解し、生命維持や苦痛の緩和、早期回復に向けての援助方法を理解する。					
回数	項目	内 容			教授学習方法	備 考
1	呼吸器	1 呼吸機能障害患者の特徴と看護 2 症状と看護 (1) 咳嗽・喀痰 (2) 血痰・喀痰 (3) 呼吸困難			講義	永松
2		3 検査と看護 (1) 喀痰検査 (2) 呼吸機能検査 (3) 気管支鏡 (4) 胸腔穿刺				
3		4 治療と看護 (1) 吸入療法 (2) 酸素療法 (3) 呼吸理学療法 (4) 人工呼吸器装着中の患者の看護				
4		5 呼吸器疾患患者の看護 (1) 呼吸器疾患の動向 (2) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)				
5		(3) 結核				
6		(4) 肺がん 胸腔ドレナージ				
7	循環器	1 循環器疾患患者の特徴と看護 2 症状と看護 (1) 胸痛 (2) 動悸 (3) 浮腫 (4) チアノーゼ (5) ショック			講義	永松
8		3 検査と看護 (1) 心電図 (2) 胸部X線検査 (3) 心エコー法 (4) 心臓カテーテル検査				
9		4 治療と看護 (1) 心臓カテーテル治療 ・経皮的冠動脈形成術 ・カテーテルアブレーション (2) 手術療法 ・冠動脈バイパス術 ・弁置換術				
10		5 疾患と看護 (1) 心筋梗塞・狭心症				
11		(2) 心不全				
12		(3) 血圧異常・不整脈 ・ペースメーカー埋め込み術				
13 14	心肺蘇生	1 心肺蘇生法 気管内挿管 A E D			講義 演習	山口県立総合医療 センター 医師:本田真広
15	試験	筆記試験				

評価の方法：筆記試験 呼吸器 (50点)、循環器 (50点)

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学3 循環器 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

令和 8 年 度 シ ラ バ ス (第 一 看 護 学 科)

31期生 2年次

授業科目		成人看護援助論2 (栄養・代謝機能障害をもつ患者の看護)	単位	1	学習時間数	30			
担当 教員	実務経験			主な実務経験場所					
	永松 佑奈 (15)	○ 無		山口県立総合医療センター					
	後根 一明 (15)	○ 無		山口県立総合医療センター					
目的	栄養・代謝機能障害をもつ対象を理解し、その対象に応じた看護が展開できるための知識・技術を養う。								
目標	1 消化器・内分泌・代謝疾患患者の身体的、心理・社会的問題を理解する。 2 消化器・内分泌・代謝疾患患者の看護を理解する。 3 慢性期の経過をたどる対象の自立に向け、再発予防のための援助方法を理解する。								
回数	項 目	内 容			教授学習方法	備 考			
1	消化器	1 消化器疾患患者の特徴と看護			講義	永松			
2 3		2 症状と看護 (1) 嚥下困難、食欲不振、おくび・胸やけ (2) 嘔気・嘔吐、腹痛 (3) 吐血、下血 (4) 腹部膨満、黄疸、肝性脳症							
4		3 検査と看護 (1) 肝機能検査 (2) 肝生検 (3) 放射線検査 (4) 内視鏡検査							
5		4 疾患と看護 (1) 胃・十二指腸潰瘍 (2) 食道がん (3) 胆石・胆嚢炎							
6		(4) 急性肝炎・慢性肝炎 (5) 肝硬変 (6) 肝臓がん							
7		(7) 急性膵炎・慢性膵炎 (8) 膵臓がん							
8		内分泌・代謝	1 内分泌・代謝疾患患者の特徴と看護 (1) 看護の目標 (2) 患者の理解 (3) 看護の目的と機能				講義	後根	
9			2 症状と看護 (1) 高血糖・低血糖・昏睡						
10	(2) 甲状腺クリーゼ (3) テタニー								
11	3 検査と看護 (1) 血糖コントロールに関する検査 (2) 血糖以外の検査 (3) 合併症に関する検査 (4) ホルモン負荷試験								
	4 疾患と看護 (1) 脂質代謝異常 (2) 痛風								
12	(3) 尿崩症・クッシング症候群・先端巨大症								
13 14	(4) 糖尿病・甲状腺機能亢進症			グループ ワーク					
15	試験		筆記試験						

評価の方法：筆記試験 消化器 (50点)、内分泌・代謝 (50点)

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器 医学書院

系統看護学講座 専門分野 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院

参考文献 斎藤宣彦 看護につなげる病態生理 照林社

令和8年度シラバス（第一看護学科）

31期生 2年次

授業科目		成人看護援助論3 (感覚・認知・運動機能障害をもつ患者の看護)		単位	I	学習時間数	30
担当 教員	実務経験			主な実務経験場所			
	堂端 竜志	(14)	(有)・無		山口県立こころの医療センター		
	水津 達郎	(6)	(有)・無		山口県立総合医療センター		
	非常勤講師	(6)	(有)・無		備考参照		
目的	感覚・認知・運動機能障害をもつ対象を理解し、その対象に応じた看護が展開できるための知識・技術を養う。						
目標	1 運動器疾患患者の看護を理解する。 2 感覚機能障害・熱傷患者の看護を理解する。 3 脳神経疾患患者の看護を理解する。 4 回復期の経過をたどる対象の慢性化予防と、円滑な社会復帰をめざした援助方法を理解する。						
回数	項目	内 容			教授学習方法	備 考	
1	運動器	1 運動機能と患者の特徴 (1) 運動機能(姿勢保持機能・移動機能・作業機能) (2) 運動器疾患患者の看護の目標 (3) 運動器疾患患者の特徴 (4) 生命・日常生活への影響 2 ICFの概念 3 腓骨神経麻痺 4 深部静脈血栓症			講義	堂端	
2		5 検査と看護 (1) 画像検査 (2) 関節可動域検査・徒手筋力テスト (3) 電気生理学的検査・筋生検 (4) 関節鏡検査 (5) 脊髓造影					
3		6 治療と看護 (1) 効果的な固定法・牽引法と生活の援助					
4		7 疾患と看護 (1) 骨折・椎間板ヘルニア・脊椎損傷 (2) 関節リウマチ					
5		(3) 変形性膝関節症 (4) 大腿骨頭部骨折 (5) 四肢切断					
6 7	リハビリ	1 理学療法			講義	長門総合病院 看護師： 永井里枝 長門総合病院 理学療法士： 久保雄太	
8	感覚器・熱傷	1 眼科疾患患者の看護 (1) 患者の理解 (2) 看護の目的と機能 (3) 点眼と薬時の事故防止 (4) 検査と看護 (5) 疾患・治療と看護 網膜剥離、緑内障、白内障			講義	堂端	
9		2 耳鼻咽喉疾患患者の看護 (1) 患者の理解 (2) 看護の目的と機能 (3) 検査と看護 (4) 疾患・治療と看護 突発性難聴、メニエール病、鼻出血、慢性副鼻腔炎、中耳炎、喉頭がん					
10		3 皮膚・熱傷患者の看護 (1) 患者の理解 (2) 看護の目的と機能 (3) 疾患・治療と看護 アトピー性皮膚炎、熱傷					
11	脳神経	1 脳神経機能と患者の特徴 (1) 患者の理解、看護の目的と役割 (2) 解剖生理			講義	水津	
12		2 検査と看護 (1) 髄液検査 (2) 脳血管造影 (3) CT・MRI・脳波・頭部単純X線撮影					
13		3 症状と看護 (1) 意識障害 (2) 運動機能障害 (3) 痙攣 (4) 頭蓋内圧亢進症状 脳ヘルニア 髄膜刺激症状					
14 15		4 疾患・治療と看護 (1) くも膜下出血 (2) 脳内出血					
試験		筆記試験					

評価の方法：筆記試験 運動器（30点）、リハビリ（10点）、感覚器・熱傷（20点）、脳神経（40点）

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳・神経 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 12 皮膚 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 13 眼 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 14 耳鼻咽喉 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 リハビリテーション看護 医学書院

令和 8 年 度 シ ラ バ ス (第 一 看 護 学 科)

31期生 2年次

授業科目		成人看護援助論 4 (造血・生体防御・排泄・女性生殖器機能障害をもつ患者の看護)		単位	1	学習時間数	30	
担当教員	実務経験			主な実務経験場所				
	水津 達郎 (20)	(有)・無			山口県立総合医療センター			
	小西 恵 (4)	(有)・無			都志見病院			
	非常勤講師 (6)	(有)・無			備考参照			
目的	造血・生体防御・排泄・女性生殖器機能障害をもつ対象を理解し、その対象に応じた看護が展開できるための知識・技術を養う。							
目標	1 血液・造血器疾患患者の看護を理解する。 2 アレルギー疾患患者・膠原病患者の看護を理解する。 3 腎泌尿器疾患・女性生殖器疾患患者の看護を理解する。							
回数	項目	内 容			教授学習方法	備考		
1 2 3 4	血液・造血器	1 血液・造血器疾患患者の特徴 2 症状と看護 (1) 貧血のある患者の看護 (2) 出血傾向のある患者の看護			講義	水津		
5		3 看護 (1) 白血病患者の看護			講義	山口県立総合医療センター看護師：宮内佳子		
6	膠原病・アレルギー	1 アレルギーの分類と看護 (1) アレルギー性鼻炎、接触性皮膚炎、食物・薬物アレルギー、アナフィラキシー			講義	水津		
7		2 膠原病の特徴と看護 (1) 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス (2) 免疫抑制剤、ステロイド						
8	腎・泌尿器	1 腎・泌尿器疾患患者の特徴 (1) 腎・泌尿器疾患患者の理解			講義	水津		
9		2 症状と看護 (1) 浮腫・排尿障害・血尿						
10		3 検査と看護 (1) 腎機能検査・腎生検・静脈性尿路造影・膀胱鏡						
11		4 治療と看護 (1) 尿路感染症(膀胱炎・腎盂腎炎) (2) 経尿道的手術、腎臓摘出術 (3) 膀胱腫瘍(尿路変更術) (4) 前立腺がん患者の看護						
12 13		5 透析患者の看護			講義	長門総合病院 看護師：大石美江		
14	女性生殖器	1 女性生殖器疾患患者の特徴 (1) 女性生殖器疾患患者の理解 身体的・心理的・社会的問題			講義	小西		
15		2 症状と看護 (1) 性器出血・帯下の観察とケア						
		3 検査と看護 (1) 内診・ホルモン療法・膣洗浄・タンポン挿入						
		4 治療を受ける患者の看護 (1) 子宮がん・卵巣腫瘍 付属器全摘・化学療法						
	試験	筆記試験						

評価の方法：筆記試験 血液・造血器 (30点)、膠原病・アレルギー (15点)、腎・泌尿器 (40点)、女性生殖器 (15点)

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学4 血液・造血器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

令和 8 年 度 シ ラ バ ス (第 一 看 護 学 科)

31期生 2年次

授 業 科 目		成人看護援助論5 (周術期・終末期看護)	単位	I	学習時間数	30	
担当 教員		実務経験		主な実務経験場所			
	永松 佑奈 (20)	(有) 無		山口県立総合医療センター			
	非常勤講師 (10)	(有) 無		備考参照			
目的	周術期・終末期の対象を理解し、その対象に応じた看護が展開できるための知識・技術を養う。						
目標	1 手術療法の基礎的知識について理解する。 2 周術期の看護を理解する。 3 終末期にある対象の症状別看護が理解できる。 4 終末期にある対象とのコミュニケーションについて理解する。						
回 数	項 目	内 容		教授学習方法	備 考		
1	周術期	1 手術療法とは (1) 手術を受ける患者の特徴と変化 (2) 手術療法の基礎知識 ・手術侵襲と生体反応 (ムアの分類) ・創傷治療過程 炎症・感染 ・術後合併症		講義	永松		
2		2 手術療法を受ける患者の看護 (1) 術前患者の看護 ・術前の観察とアセスメント ・術前オリエンテーション ・全身麻酔・脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔					
3 4		(2) 術後患者の看護 ・術後の観察とアセスメント ・術後疼痛 創部・ドレーンの管理 ・術後の環境 ・早期離床 ・自己管理指導					
5		3 胃切除術を受ける患者の看護 (1) ダンピング症候群と食事指導 (2) 退院指導					
6		4 大腸切除術を受ける患者の看護 (1) 低位前方切除術を受ける患者の看護 (2) ストーマ造設術を受ける患者の看護		講義	長門総合病院 看護師：大野真琴		
7		5 乳房切除術を受ける患者の看護 (1) 術前・術後の看護 ・リンパ浮腫予防と感染予防 ・機能訓練 (2) ボディイメージの変化と適応に向けての支援		講義	長門総合病院 看護師：仙田 望		
8		6 手術中患者の看護		講義	長門総合病院 看護師：渡邊恵代		
9		7 ICUの看護		講義	山口県立総合医療センター 看護師：永田祐香里		
10		終末期	1 がん患者の看護 全人的苦痛と症状マネジメント		講義	山口県立総合医療センター がん看護専門看護師：内田 恵	
11	2 がん終末期患者の特徴		講義 グループワーク	永松			
12	3 疼痛アセスメントと援助 (1) 痛みのメカニズム (2) 痛みのマネジメント (3) 疼痛ラダー (4) オピオイド使用時の看護		講義				
13	4 症状と苦痛軽減への援助 (1) 呼吸困難 (2) 消化器症状 (3) 倦怠感 (4) 浮腫						
14	5 死の受容過程 (1) アセスメントと援助 (2) 緩和ケアにおけるコミュニケーション (3) 看取りの支援 (4) 家族ケア 悲嘆 グリーフケア		講義 動画視聴				
15	6 意思決定支援 (1) 意思決定支援 (2) アドバンスケアプランニング		講義 グループワーク				
	試験	筆記試験					

評価の方法：筆記試験 周術期 (60点)、終末期 (40点)

テキスト：系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院

参考文献：小松浩子 系統看護学講座 専門分野 成人看護学Ⅰ 成人看護学総論 医学書院
 中村美知子 周術期看護 インターメディカ
 佐藤栄子 中範囲理論 日経研
 成人看護学⑥緩和ケア ナーシンググラフィカ

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授 業 科 目		老年看護援助論Ⅰ (加齢による生活の変化)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員			実務経験	主な実務経験場所		
	後根 一明：(24)		○・無	山口県立総合医療センター		
	非常勤講師：(6)		○・無	備考参照		
目的	加齢による機能低下や健康障害により日常生活に引き起こされる影響に対する看護を学ぶ。					
目標	1 加齢によって起こってくる生活の変化とその看護が理解できる。 2 高齢者に多い身体症状と看護を理解する。 3 認知機能障害のある高齢者の看護が理解できる。					
回	項 目	内 容		教授学習方法	備考	
1	加齢によって起 こってくる生活 変化	1 高齢者の生活機能を整える看護 (1) 日常生活を支える基本的活動 ・ 基本動作と環境のアセスメント ・ 転倒のアセスメントと看護 ・ 廃用症候群のアセスメントと看護		講義		
2		(2) 食事・食生活 ・ 摂食・嚥下機能のアセスメントと看護				
3		(3) 排泄 ・ 排泄のアセスメントと看護 ・ 排尿障害と排便障害のアセスメントと看護				
4		(4) 清潔 ・ 清潔のアセスメントと看護 (5) 生活リズム ・ 生活リズムのアセスメントと看護				
5		(6) コミュニケーション ・ コミュニケーション能力のアセスメント (老人性難聴、失語症、構音障害、難聴や視力障害) ・ 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法 (7) セクシュアリティ、社会参加 ・ 高齢者の現状と目ざす社会の方向性 ・ セクシュアリティのアセスメントと看護				
6		(8) 高齢者のリスクマネジメント ・ 高齢者と医療安全 ・ 高齢者と災害		講義 グループワーク		
7	老年期に多い 身体症状と看護	2 健康逸脱からの回復を促す看護 (1) 痛み (2) 掻痒(かゆみ) (3) 脱水		講義		
8		(4) 低栄養状態 (5) 褥瘡・スキン・テア (6) 骨粗鬆症・骨折				
9		(7) うつ (8) せん妄				
10 11	認知機能障害 のある高齢者の 看護	3 認知症のある人の看護 (1) 認知症の定義 (2) 認知症の疫学 (3) 認知症の分類 (4) 認知症の症状(中核症状、行動・心理症状) (5) 認知症の病態・診断・治療・予防 (6) 認知症の看護		講義 DVD視聴		
12 13		(7) 認知症高齢者の看護の実際		講義	萩市民病院 看護師： 高杉如美	
14		4 嚥下障害のある患者のリハビリテーションの実際		講義	長門総合病院 言語療法士： 山根祐樹	
15	試験	筆記試験				

評価の方法：筆記試験：後根(70点)、外部講師(10点)、レポート・グループ学習参加態度(20点)

テキスト：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

令和 8 年 度 シ ラ バ ス (第 一 看 護 学 科)

31期生 2年次

授 業 科 目		老年看護援助論 2 (高齢者の生活支援)	単位	I	学習時間数	15
担当 教員			実務経験	主な実務経験場所		
	後根 一明：(11)		○有・無	山口県立総合医療センター		
	非常勤講師：(4)		○有・無	備考参照		
目的	生活支援を必要とする高齢者の看護を学ぶ。					
目標	1 高齢者の日常生活への支援方法を学ぶ。 2 生活支援を必要とする高齢者の退院支援が理解できる。					
回	項 目	内 容		教授学習方法	備考	
1 2	高齢者の 日常生活への 支援方法	1 嚥下障害・片麻痺のある高齢者の食事介助 2 口腔ケア		演習		
3 4		3 片麻痺のある高齢者の排泄の援助 (ポータブルトイレ介助、おむつのあて方) 4 片麻痺のある高齢者の車椅子移乗・移送の援助				
5	生活支援を必要 とする高齢者の 退院支援	2 身体可動性障害のある人の看護 (1) 脳梗塞を発症した高齢者の看護		講義 演習		
6		(2) 脳梗塞を発症した高齢者の看護の実際		講義	長門総合病院 看護師：永尾恵	
7		(3) 退院支援の実際		講義	長門総合病院 看護師：久行恵美	
8	試験	筆記試験				

評価の方法：筆記試験(40点)、演習(40点)、レポート・グループ学習参加態度(20点)

テキスト：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院

系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

根拠と事故防止からみた老年看護技術 医学書院

令和 8 年 度 シ ラ バ ス (第 一 看 護 学 科)

31期生 2年次

授 業 科 目		小児看護学概論2 (小児保健・倫理)	単 位	1	学習時間数	15
担当教員			実務経験		主な実務経験場所	
	田村 真由美		○ 無		萩病院	
目 的	小児の成長・発達に影響を与える環境因子として、小児と家族、小児を取り巻く社会について学ぶ。小児看護の歴史を振り返り、現状を理解し、保健・医療・福祉の動向や対策を学ぶ。					
目 標	1 小児看護の概念を理解する。 2 子どもと家族をとりまく環境を理解する。 3 小児の健康の指標と小児を保護する法律や保健対策を理解する。					
回 数	項 目	内 容			教授学習方法	備 考
1	小児看護の概念	1 小児と家族 2 小児看護の変遷 (1) 児童観・小児医療・小児看護の変遷			講義	
2		3 小児看護における倫理 (1) 子どもの権利 (2) 医療で起こりやすい問題点と看護 (3) 児童虐待(児童虐待法) (4) 臓器移植			講義	
3					講義	
4	子どもと家族をとりまく環境と保健	1 小児と家族の諸統計 (1) 人口構造 (2) 出生と家族 (3) 子どもの死亡 2 法律と政策の動向 (1) 児童福祉法 (2) 児童憲章 (3) 母子保健法 (4) 母子保健施策			講義	
5		3 学校保健 (1) 意義と行政、実際と現状 (2) 病児保育			講義	
6		4 乳児健康診査			グループワーク	
7		5 予防接種 (1) 予防接種と法律 (2) ワクチンの種類と接種間隔、接種法 (3) 注意すべき事項			講義 グループワーク	
8		試験	筆記試験			

評価の方法：筆記試験（80点） グループワーク（20点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院

治療薬マニュアル 2025 医学書院

国民衛生の動向 厚生労働統計協会

参考文献：船島なをみ、望月美知代 看護のための人間発達学 医学書院

令和 8 年 度 シ ラ バ ス (第 一 看 護 学 科)

31期生 2 年次

授 業 科 目		小児看護援助論Ⅰ (さまざまな状況にある小児と 家族への看護)	単 位	1	学習時間数	30
担当教員			実務経験	主な実務経験場所		
	田村 真由美 (24)		(有) 無	救病院		
	非常勤講師 (6)		(有) 無	備考参照		
目 的	小児の健康障害の特徴について、発達段階に応じた身体・精神機能に基づき理解し、健康障害が小児及びその家族に及ぼす影響を学ぶ。					
目 標	1 小児を理解するための方法と技術を理解する。 2 健康障害や入院が小児とその家族に与える影響について理解する。 3 健康障害をもつ小児の看護を健康障害の経過や治療処置とともに理解する。					
回 数	項 目	内 容		教授学習方法	備 考	
1	子どものアセスメント	1 アセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション (2) バイタルサイン (3) 身体測定		講義 映像		
2						
3		2 成長・発達段階をふまえたアセスメント		グループワーク		
4		3 バイタルサイン測定演習 (1) バイタルサイン測定の特徴と工夫 (2) 測定方法の実際		演習		
5		4 身体測定演習 (1) 身体測定の目的・看護師の役割・方法と実際 5 フィジカルアセスメント (1) 観察項目と問診の方法 (2) 緊急度の把握・トリアージ				
6	疾病・障害が子どもと家族に与える影響と看護	1 疾病・障害が子どもと家族に与える影響 2 子どもの健康問題と看護 (1) 健康問題をもつ子どもと家族の看護の方向性 (2) 意思決定の支援 (3) 発達段階に即したセルフケアの支援 (4) 遊び、学習、友人との交流の支援 (5) 社会生活の支援と家族への看護		講義		
7	検査・処置を受ける子どもと家族への看護	1 子どもと家族の体験と看護の実際 2 薬物動態と薬用量の決定 3 検査・処置時の看護 (1) 与薬 (2) 輸液管理 (3) 抑制 (4) 検体採取 (採尿・採血・骨髓穿刺・腰椎穿刺) (5) 吸引 (6) 吸入療法		講義		
8						
9	子どもの状況に特徴づけられる看護	1 外来における子どもと家族の看護 (1) 外来受診する子どもと家族の特徴 (2) 外来の環境 (3) 外来における子どもと家族の看護		講義 映像		
10		2 入院する子どもと家族の看護 (1) 入院する子どもと家族の特徴 (2) 緊急入院時の子どもと家族への看護 (3) 入院する子どもと家族の看護		講義	長門総合病院 看護師:南部佳枝	
11		3 隔離中の子どもと家族の看護 4 活動制限のある子どもと家族の看護 5 災害時の子どもと家族の看護 6 在宅療養を行う子どもと家族の看護		講義		
12						
13				講義		
14		7 発達障害児の発達と支援			発達・教育相談研究所 所長:石橋剛	
15		試験	筆記試験			

評価の方法:筆記試験(80点) 演習・グループワーク(20点)

テキスト:系統看護学講座 専門分野 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

系統看護学講座 専門分野 小児看護学Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院

根拠と事故防止からみた 小児看護技術 医学書院

参考文献:山元恵子監修、佐々木祥子編著 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ

令和8年度シラバス（第一看護学科）

31期生 2年次

授 業 科 目		母性看護援助論Ⅰ (周産期の健康状態と看護)	単 位	1	学習時間数	30
担当教員	戸川 優子		実務経験 (有)・無	主な実務経験場所 山口県立総合医療センター		
目 的	妊娠、分娩、産褥及び新生児の母子が経験する身体的、心理的、社会的変化を理解し、母子の健康の維持・増進、疾病の予防のために、家族を含めた看護を学ぶ。					
目 標	1 妊娠・分娩・産褥及び新生児の生理的変化と対象の反応を理解する。 2 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対して必要な看護を理解する。 3 母性機能・母親役割遂行のために、疾病予防の援助がわかる。 4 周産期の健康状態が母性機能・母親役割の遂行に与える影響がわかる。					
回 数	項 目	内 容	教授学習方法	備 考		
1	妊娠期における看護	1 妊娠期の身体的、心理的、社会的特性 (1) 妊娠の生理 (2) 胎児の発育と生理	講義			
2		(3) 母体の生理的変化	講義			
3		(4) 妊婦の心理 (5) 妊婦と家族および社会 2 妊婦と胎児のアセスメント (1) 妊娠の経過と診断 (2) 胎児の発育と健康状態の診断	講義			
4		(3) 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント (4) 妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント 3 妊婦と家族の看護 (1) 妊婦の健康相談 (2) 親になるための準備教育	講義 グループワー ク			
5	分娩期における看護	1 分娩の要素と経過 (1) 分娩の3要素 (2) 分娩の進行と産婦の身体的変化 (3) 産痛 (4) 分娩が胎児に及ぼす影響 (5) 産婦の心理・社会的変化	講義			
6		2 産婦・胎児、家族のアセスメント (1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント (2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント 3 産婦と家族の看護 (1) 看護目標と産婦のニーズ (2) 安全分娩への看護	講義 グループワー ク			
7		(3) 安楽な分娩への看護 (4) 出産体験が肯定的になるための看護 (5) 基本的ニーズに関する看護	講義 グループワー ク			
8	新生児期における看護	1 新生児の生理、機能 2 新生児のアセスメント (1) 新生児の診断 (2) 新生児の健康状態のアセスメント	講義			
9		3 新生児の看護 (1) 出生直後の看護 (2) 出生後から退院時までの看護	講義			
10	産褥期における看護	1 産褥期の身体的、心理的、社会的変化 (1) 産褥の定義 (2) 退行性変化、進行性変化 (3) 産褥期の心理・社会的変化 2 褥婦のアセスメント (1) 産褥経過の診断 (2) 褥婦の健康状態のアセスメント	講義 グループワー ク			
11		3 褥婦と家族の看護 (1) 身体機能の回復および退行性変化・進行性変化への看護 (2) 児との関係確立への看護 (3) 育児にかかわる看護 (4) 家族関係再構築への看護 (5) 施設退院後の看護	講義 グループワー ク			
12		4 看護過程の展開 (1) マタニティサイクルにある対象の看護の特徴 (2) ヘルスプロモーション型診断とは (3) ウエルネス	講義 グループワー ク			
13	母性看護技術	1 妊婦体験 2 レオポルド触診法、NST装着、NSTの判読 3 腹囲・子宮底長測定 4 新生児のバイタルサイン測定・全身観察	演習			
14		5 沐浴・臍処置 6 授乳指導(児の抱き方・排気) 7 おむつ交換 8 褥婦のバイタルサイン測定・全身観察	演習			
15	試験	筆記試験				

評価の方法：筆記試験(90点) 課題(10点)

テキスト：系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院

系統看護学講座 専門分野 母性看護学Ⅰ 母性看護学概論 医学書院

新訂版 周産期ケアマニュアル 第3版 サイオ出版

令和8年度シラバス（第一看護学科）

31期生 2年次

授 業 科 目		母性看護援助論2 (周産期の健康課題と看護)	単 位	I	学習時間数	15
担当教員			実務経験	主な実務経験場所		
	戸川 優子:(13)		(有)・無	山口県立総合医療センター		
	非常勤講師(2)		(有)・無	備考参照		
目 的	周産期に起こりやすいハイリスクな状態を学び、疾患の予防と看護を学ぶ。					
目 標	1 妊娠・分娩・産褥及び新生児期におけるハイリスクな状態の母子とその家族への看護について理解する。 2 周産期の健康課題が母性機能・母親役割の遂行に与える影響がわかる。 3 母性機能・母親役割遂行のために、健康課題および健康回復の援助がわかる。					
回 数	項 目	内 容		教授学習方法	備 考	
1	治療が必要な母子への看護	1 妊娠の異常と看護 (1)ハイリスク妊娠 (2)妊娠悪阻 (3)異所性妊娠 (4)流産、早産・切迫早産		講義		
2		(5)前置胎盤 (6)常位胎盤早期剥離 (7)妊娠高血圧症候群 (8)血液型不適合妊娠		講義		
3		(9)多胎妊娠 (10)感染症 (11)糖代謝異常合併妊娠 (12)合併症を有する妊婦の看護		講義		
4		2 分娩の異常と看護 (1)異常のある産婦(胎児)の看護 (2)急速遂娩を受ける産婦の看護 (3)分娩時異常出血のある産婦の看護 (4)胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 (5)異常分娩時の産婦の看護		講義		
5		3 新生児の異常と看護 (1)新生児仮死 (2)分娩外傷 (3)低出生体重児・早産児 (4)高ビリルビン血症		講義	長門総合病院 助産師: 藤本富美江	
6		4 産褥の異常と看護 (1)子宮復古不全 (2)産褥期の発熱 (3)産褥血栓症 (4)乳房トラブル		講義		
7		(5)母子分離時の褥婦の看護 (6)精神障害のある褥婦の看護 (7)児を亡くした褥婦・家族の看護		講義		
8	試験	筆記試験				

評価の方法:筆記試験(100点)

テキスト:系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院
 新訂版 周産期ケアマニュアル 第3版 サイオ出版

令和8年度シラバス（第一看護学科）

31期生 2年次

授業科目		精神看護学概論2 (精神保健)	単位	1	学習時間数	15
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	堂端 竜志：(7)		(有)・無		山口県立こころの医療センター等	
	非常勤講師：(8)		(有)・無		備考参照	
目的	精神保健・精神医療についての基礎知識を学習し、ライフサイクルと個別課題への取り組みと実際について学ぶ。					
目標	1 各ライフサイクル別に見られるこころの発達と健康問題について理解する。 2 環境がこころの健康に及ぼす影響を理解する。 3 精神医療の歴史的変遷を理解する。 4 精神保健福祉の法的制度を理解する。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考
1	ライフサイクルと精神保健	1. 胎児期における発達危機 2 乳幼児期における発達危機 3 学童期における発達危機 4 思春期、青年期における発達危機 5 成人期における発達危機 6 中年期における発達危機 7 老年期における発達危機			講義	
2 3 4 5	生活の場と精神保健	1 家庭における精神保健 2 保育所、学校における精神保健 3 職場における精神保健 4 地域における精神保健			講義	山口カウンセリングオフィス 臨床心理士・ 公認心理師: 武田朋昭
6	精神医療の変遷	1 精神障害と治療の歴史 2 日本における精神医療の流れ 3 入院患者の地域移行の動き			講義	
7	精神保健福祉法	1 精神保健福祉法 (1) 精神保健福祉法の概要 (2) 精神保健福祉法に基づく入院形態 2 個別の課題に対応した法律 (1) 医療観察法、犯罪被害者等基本法 (2) 成年後見制度			講義	
8	試験	筆記試験				

評価の方法：筆記試験 堂端：50点、武田先生：50点

テキスト：系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院

令和8年度シラバス（第一看護学科）

31期生 2年次

授業科目		精神看護援助論Ⅰ (検査・治療別看護)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	堂端 竜志	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立こころの医療センター等	
目的		精神に障害のある対象の疾患を理解し、検査・治療を受ける対象及びその家族への看護を学ぶ。					
目標		1 精神に障害のある対象の診察・検査およびその看護を理解する。 2 精神に障害のある対象の治療およびその看護を理解する。 3 精神科におけるリスクマネジメントの種類と予防策を理解する。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考	
1	精神に障害のある対象の診察・検査およびその看護	1 診察の基礎と要点 (1) 観察、問診 (2) 既往歴、生育歴、家族歴 2 精神障害の診断と分類 (1) DSMとICD (2) 分類方法の変化			講義		
2		3 心理検査 (1) 知能検査 (2) 人格検査 (3) 認知機能検査 4 検査時の看護					
3 4 5	精神に障害のある対象の治療およびその看護	1 身体的アプローチ (1) 薬物療法 ・ 向精神薬、抗精神病薬 ・ 抗うつ薬、抗不安薬、抗てんかん薬 (2) 看護師による服薬へのかかわり (3) 電気けいれん療法			講義		
6 7		2 心理・社会的アプローチ (1) 精神療法 (2) 自律訓練法 (3) 芸術療法 (4) 森田療法 (5) 認知行動療法 (6) 作業療法 (7) 社会生活技能訓練 (S S T) 3 環境療法・社会療法					
8 9 10		4 治療的環境 (1) 治療的環境としての病院・病棟 (2) 閉鎖病棟と開放病棟 (3) 生活環境			講義 DVD視聴		
11 12	治療的なコミュニケーション	1 精神看護におけるコミュニケーション 2 生きる力と強さに着目した援助 3 患者－看護師関係の理解 (1) ペプロウ対人関係理論 (2) トラベルビー対人関係理論 4 プロセスレコードの活用			講義		
13	精神科におけるリスクマネジメント	1 行動制限 (1) 隔離 (2) 身体的拘束			講義		
14		2 自殺、自殺企図、自傷行為 3 攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム 4 無断離院					
15		試験					
筆記試験							

評価の方法：筆記試験（85点）・レポート（15点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 精神看護学Ⅱ 精神看護の展開 医学書院

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授 業 科 目		看護の統合と実践Ⅰ (医療安全)	単位	I	学習時間数	15
担当 教員		実務経験		主な実務経験場所		
	稲葉 紫保：(11)	有・無		山口県立総合医療センター		
	非常勤講師(4)	有・無		備考参照		
目的	医療安全の基礎的知識を理解し、安全に関する認識を高める。					
目標	1 医療事故の構造を理解し、看護事故の防止と考え方を理解する。 2 医療事故がどのような要因で起きているかを理解する。 3 さまざまな状況で起きた看護事故の分析を行うことで、医療安全対策について考える。 4 感染対策を学び、感染症患者の看護を理解する。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考
1	医療事故の構造と医療 事故防止の考え方	1 医療事故と看護業務 2 医療事故の構造 3 看護事故防止の考え方			講義	
2	組織的な安全管理体制 への取り組み	1 組織としての医療安全対策 2 システムとしての事故防止 3 国の医療安全対策			講義/DVD	
3・4	看護業務における事故 防止	1 診療の補助の事故防止 (1) 注射・輸液ポンプ・シリンジポンプ (2) 輸血 (3) 内服与薬 (4) 経管栄養(注入) 2 療養上の世話の事故防止 (1) 転倒・転落 (2) 摂食中の窒息・誤嚥 (3) 異食 (4) 入浴中の事故			講義	医療安全ワーク ブック使用
5	医療機器	1 輸液ポンプ・シリンジポンプの使い方			演習	
6	施設内リスクマネーজে メント	1 業務領域を超えて共通する患者間違い 2 情報伝達の混乱と情報共有の不足 3 間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断 4 新人特有の危険な思いこみと行動パターン			講義	山口県立総合医 療センターリス クマネージャー： 道中 恵
7	感染症 患者の看護	1 感染症概論 市中感染と新興感染・再興感染症 2 感染経路に対応した感染予防 3 感染症患者の観察とアセスメント 4 感染症患者の看護 5 施設内感染対策の実践			講義	山口県立総合医 療センター感 染管理認定看護 師： 山田恭子
8	試験	筆記試験				

評価方法:筆記試験(80点) 事前課題・レポート(20点)

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院

川村治子 医療安全ワークブック 医学書院

系統看護学講座 専門分野 成人看護学II アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

令和8年度シラバス(第一看護学科)

31期生 2年次

授 業 科 目		看護の統合と実践2 (災害看護・国際看護)		単位	I	学習時間数	15
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所		
	稲葉 紫保:(5)		有・無		山口県立総合医療センター		
	非常勤講師(10)		有・無		備考参照		
目的	災害看護の基礎的知識を理解し、災害時に対応できる基礎的能力を養う。 国際看護の基礎的知識を理解し、異文化看護の留意点について学ぶ。						
目標	1 災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解する。 2 健康を国際的視野でとらえ、国内の外国人への看護を考えることができる。						
回	項 目	内 容			教授学習内容	備 考	
1	災害医療の 基礎知識	1 災害の定義 2 災害の種類と健康障害 3 災害医療の特徴 4 災害と情報 5 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 6 災害看護と法律			講義 演習	訪問看護ステーションこころの樹 クリティカルケア認定 看護師・特定看護師・日本DMAT隊員 磯本一夫	
2	災害看護の 基礎知識	1 災害看護の定義と役割 2 災害看護の対象 3 災害看護の特徴と看護活動 4 災害サイクルに応じた看護			講義 演習		
3・4	施設内の 災害看護の実際	1 災害時における病院の対応 トリアージの実際 2 施設内災害時の初動対策のポイント 3 災害派遣医療チーム(DMAT)の活動			講義 演習	山口大学医学部附属病院急性・重症患者看護専門看護師: 向江 剛	
5・6	国際看護の基礎 知識	1 国際看護学とは 2 グローバルヘルス 3 国際協力のしくみ 4 文化を考慮した看護			講義/DVD		
7	国際看護の実際	1 日本が行っている政府開発援助(ODA・JICA) 2 国際協力活動において看護が果たす役割と活動の実際			講義	JICA海外派遣看護師: 水野美加	
8	試験	筆記試験					

評価の方法:筆記試験 国際看護:稲葉(50点) 災害看護:磯本先生(50点)

テキスト:系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院

参考文献:系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院

令和 8 年 度 シ ラ バ ス (第 一 看 護 学 科)

授業科目	成人・老年看護学実習	担当 教員	永松 佑奈 堂端 竜志 後根 一明	開講 年次	2年次前期 ～3年次前期	単位数	8	時間数	各 90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的 成人・老年期にある対象を理解し、健康の各段階にある対象及びその家族に対し看護ができる基礎的能力を養う。									
目標 1 成人・老年期にある対象を、身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2 成人・老年期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を身につける。 3 成人・老年期にある対象の健康状態に応じた看護の必要性を認識し、看護に必要な技術を身につける。 4 対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として、看護の役割を理解する。 7 成人・老年看護学実習をとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。									
実習計画 1 成人・老年看護学実習1（看護の思考過程を学ぶ実習） 2年次 別紙参照 2 成人・老年看護学実習2（急性期） 2年次前期～3年次前期 別紙参照 3 成人・老年看護学実習3（回復期） 2年次前期～3年次前期 別紙参照 4 成人・老年看護学実習4（慢性期・終末期） 2年次前期～3年次前期 別紙参照									
評価方法 実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。									
テキスト 成人看護学概論、成人看護学各テキスト、老年看護学概論、老年看護 病態・疾患論 根拠と事故防止からみた老年看護技術、授業資料									

令和 8 年度 シラバス (第一看護学科)

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の思考過程を学ぶ実習)	担当教員	永松 佑奈	開講年次	2年次前期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的 成人・老年期にある対象を理解し、健康上の課題を解決するための看護の思考過程の基礎的能力を養う。									
目標 1 対象を身体的・精神的・社会的側面からアセスメントする。 2 対象の健康上の課題を判断確定し、健康上の課題を解決に導く方法を身につける。 3 計画に基づいた日常生活援助を実施する。 4 対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 保健医療福祉チームの一員として、看護の役割を理解する。 7 実習をとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。									
実習計画 1 実習期間 11日間 2 実習施設 長門総合病院 2階病棟 3階病棟 新本館東3階病棟 4階病棟 5階病棟 3 実習方法 対象を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。 (1) 実習オリエンテーション(実習1日目) (2) 初期計画検討(実習5日目頃) 全体関連図・看護診断・看護計画を検討する。 (3) テーマカンファレンス(実習8日目頃) 事例をもとに実習指導者とカンファレンスを行う。 (4) 学びの会(実習10日目) 情報共有を行い、学びを深める。 (5) 学内学習日 (実習6日目頃) 対象理解を深めるため、アセスメントの整理や看護計画の修正を行う。 (実習11日目) 実習での経験を振り返り、自己の学びをまとめる。 文献等でエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。									
評価方法 実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。									
テキスト 系統看護学講座 専門分野 各テキスト、授業資料									

令和8年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	成人・老年看護学実習2 (急性期)	担当 教員	永松 佑奈	開講 年次	2年次後期 ～3年次前期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	急性期にある対象を理解し、生命の維持、健康回復・保持増進を支援する力を養う。								
目標	1 周術期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2 周術期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を身につける。 3 周術期にある対象の健康状態に応じた支援方法を身につける。 4 周術期にある対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 健康回復に向けて継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。 7 周術期にある対象及び家族との関わりをとおしてその人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 長門総合病院 2階病棟 手術室 3 実習方法 周術期にある対象を受け持ち、看護過程を展開し、必要な看護を行う。 手術を見学する。 (1) 病棟オリエンテーション、手術室オリエンテーション(実習2日目) (2) 初期計画検討会(手術見学の日程を考慮し調整する) 全体関連図・看護診断・看護計画を提示し、検討する。 (3) テーマカンファレンス(実習7～8日目頃) 事例をもとに、実習指導者とカンファレンスを行う。 (4) 学びの会(実習10日目) 情報共有を行い、学びを深める。 (5) 学内学習日 (実習1日目) 対象理解を深めるため、疾患や治療の学習を行う。 事例に合わせた技術練習を行う。 (実習11日目) 実習の経験を振り返り、自己の学びをまとめる。 文献等でエビデンスを確認する。 グループで情報共有し、学びを深める。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学各テキスト、老年看護学概論、老年看護 病態・疾患論 別巻 臨床外科看護総論・各論、周術期看護、授業資料								

令和 8 年度 シラバス (第一看護学科)

授業科目	成人・老年看護学実習3 (回復期)	担当 教員	堂端 竜志	開講 年次	2年次後期 ～3年次前期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	回復期にある対象を理解し、障害受容と生活の自立を支援する力を養う。								
目標	(1) 回復期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 (2) 回復期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を身につける。 (3) 回復期にある対象の健康状態と生活環境に応じた支援方法を身につける。 (4) 回復期にある対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 (5) 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 (6) 健康回復に向けて継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。 (7) 回復期にある対象との関わりをとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 長門総合病院 3階病棟 新本館東3階病棟 3 実習方法 回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。 (1) 実習オリエンテーション(実習2日目) (2) 初期計画検討会(実習4～5日目頃) 全体関連図・看護診断・看護計画を提示し検討する。 (3) テーマカンファレンス(実習7～8日目頃) 事例をもとに、実習指導者とカンファレンスを行う。 (4) 学びの会(実習10日目) 情報の共有を行い、学びを深める。 (5) 学内学習日 (実習1日目) 対象理解を深めるために、疾患や治療の学習を行う。 事例にあわせた技術練習を行う。 (実習11日目) 実習での経験を振り返り、自己の学びをまとめる。 文献等でエビデンスを確認する。 グループで情報共有し、学びを深める。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	成人看護学概論、臨床外科看護総論、臨床外科看護各論、成人看護学各テキスト、老年看護学概論、老年看護 病態・疾患論、授業資料								

令和 8 年 度 シ ラ バ ス (第 一 看 護 学 科)

授業科目	成人・老年看護学実習4 (慢性期・終末期)	担当 教員	後根 一明	開講 年次	2年次後期 ～3年次前期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	慢性期・終末期にある対象を理解し、健康の各段階にある対象を支援する力を養う。								
目標	1 慢性期・終末期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2 慢性期・終末期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を身につける。 3 慢性期・終末期にある対象の健康状態と生活環境に応じた支援方法を身につける。 4 慢性期・終末期にある対象の生命の尊厳と人権を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。 7 慢性期・終末期にある対象との関わりをとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 長門総合病院 4階病棟 新本館東3階病棟 透析室 3 実習方法 (1) 慢性期・終末期にある対象を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。 ・実習オリエンテーション(実習2日目) ・初期計画検討会(実習4～5日目頃) 全体関連図・看護診断・看護計画を提示し、検討する。 ・テーマカンファレンス(実習7～8日目頃) 事例をもとに、指導者とカンファレンスを行う。 ・学びの会(実習10日目) 情報共有を行い、学びを深める。 ・学内学習日 (実習1日目) 対象理解を深めるため、疾患や治療の学習を行う。 事例に合わせた技術練習を行う。 (実習11日目) 実習での経験を振り返り、学びをまとめる。 文献などエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。 (2) 透析室実習(0.5日間) 血液透析と透析室看護の実際を見学する。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	成人看護学概論、成人看護学各テキスト、老年看護学概論、老年看護 病態・疾患論、根拠と事故防止からみた老年看護技術、授業資料								

令和 8 年 度 シ ラ バ ス (第 一 看 護 学 科)

授業科目	老年看護学実習 (施設で暮らす高齢者を知る実習)	担当 教員	後根 一明	開講 年次	2 年次後期	単位数	1	時間数	45
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	老年期にある対象の生活を知り、看護師としてその人らしい生活支援ができる基礎能力を養う。								
目標	1 老年期にある対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。 2 老年期にある対象がその人らしく生活しながら、QOLを高めるための支援を理解する。 3 老年期にある対象の生命の尊厳と人権を大切に、援助関係を形成するための関わりを理解する。 4 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 5 施設で暮らす高齢者の生活を支える多職種の役割及び連携・協働の実際を理解する。 6 老年看護学実習をとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 5日間 2 実習施設 特別養護老人ホーム 3 実習方法 施設で生活する老年期にある対象を受け持ち、コミュニケーションや同行実習を行う。 (1) 実習オリエンテーション(実習1日目) (2) 看護師同行実習(0.5日間) (3) 学びの会(実習5日目)								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 根拠と事故防止からみた老年看護技術 医学書院 授業資料								

令和 8 年 度 シ ラ バ ス (第一看護学科)

授業科目	小児看護学実習	担当 教員	田村 真由美	開講 年次	2年次後期 ～3年次前期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的 小児の成長・発達を理解し、健康な小児と健康を障害された小児及びその家族に看護ができる基礎的能力を養う。									
目標 1 小児の成長・発達段階、健康状態、及び小児を取り巻く環境を理解する。 2 小児の成長・発達段階をふまえ、その子と家族のもつ力を引き出す看護を理解する。 3 小児の成長・発達及び健康状態に応じた基礎的看護技術を身につける。 4 小児の生命の尊厳と人権を尊重し、看護専門職として小児及び家族と援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 小児と家族を取り巻く保健医療福祉及び教育との連携を知り、多職種間における看護の役割を理解する。 7 小児看護学実習をとおして、その子らしい生活を支えるための看護を考える。									
実習計画 1 実習期間 11日間 2 実習施設 長門総合病院 3階病棟 小児外来 萩市椿保育園 萩市保健センター 3 実習方法 実習ラウンド表に基づき、それぞれの実習場所に分かれ、実習を行う。 (1) 学内にて実習オリエンテーションを受ける。 (2) 病棟実習(3日間) 原則1人の患児を受け持ち、必要な看護を行う。 (3) 小児外来実習(3日間) 外来で行われている処置、検査、治療を見学し、必要な援助を行う。 診察、乳児健診、予防接種の見学と介助を行う。 (4) 保育園実習(2日間) 乳幼児(0～6歳)の各クラスで、デイリープログラムに沿って見と関わる。 (5) 保健センター実習(1日間) 保健センターで行われる母子保健事業(乳幼児健診、健康相談等)に参加し、小児の成長発達の実態と家族の育児支援、他職種との連携を見学する。 (6) 学内学習日(2日間) (実習1日目) 小児の事例を基にシミュレーションを行う。 DVDの視聴を行い、保育園と多職種連携の学びを深める。 (実習11日目) 実習の経験を振り返り、自己の学びをまとめる。 文献等でエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。									
評価方法 実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、発表会の参加状況などを総合的に評価する。									
テキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 根拠と事故防止から見た小児看護技術 医学書院、看護のための人間発達学 医学書院 授業資料									

令和8年度シラバス（第一看護学科）

授業科目	母性看護学実習	担当 教員	戸川 優子	開講 年次	2年次後期 ～3年次前期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的 妊娠・分娩・産褥各期及び新生児期にある対象の特徴を理解し、母子とその家族に必要な看護ができる基礎的能力を養う。									
目標 1 妊娠・分娩・産褥各期及び新生児期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2 妊婦・産婦・褥婦・新生児（胎児）の状態を根拠に基づいて解釈・分析し、必要な看護を考察する。 3 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護を身につける。 4 妊婦・産婦・褥婦・新生児（胎児）及びその家族の生命の尊厳と人権を尊重し、看護専門職として援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 母性看護における継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として、看護師の役割を理解する。 7 母性看護学実習をととして、その人らしい生活を支える看護について考える。									
実習計画 1 実習期間 11日間 2 実習施設 長門総合病院 3階病棟、産婦人科外来、手術室 3 実習方法 実習ラウンド表に基づき、学生1～2名でそれぞれの実習場所に別れ、実習を行う。 (1) 実習オリエンテーション（実習2日目） (2) 病棟実習 褥室（4～5日間） 褥婦を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。 新生児室（2～3日間） 新生児を受け持ち、生後日数に応じた経過をたどっているかアセスメントする。 新生児の看護やハイリスク新生児に関する知識・技術を学ぶ。 分娩室（1日間） 分娩見学をととして分娩期の看護に関する知識・技術を学ぶ。 (3) 産婦人科外来（1日間） 2人の妊婦を受け持ち、妊娠経過をアセスメントし、必要な看護を行う。 (4) テーマカンファレンス（実習第2週目） 事例をもとに、実習指導者とカンファレンスを行う。 (5) 学びの会（実習10日目） 情報共有し、学びを深める。 (6) 学内学習日 （実習1日目） 対象理解を深めるため、学習を行う。 沐浴技術試験やシミュレーションを行う。 （実習11日目） 実習での経験を振り返り自己の学びにまとめる。文献等でエビデンスを確認する。 グループで情報共有し、学びを深める。									
評価方法 実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。									
テキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 新訂版 周産期ケアマニュアル 第3版 サイオ出版 授業資料									